

羅 針 盤		
評価対象	評 価 項 目	具体的数値項目
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①「自分の学校が好きだ」と感じている生徒が90%以上である。 ② 生徒にとって魅力的で特色ある学校行事を年に5回以上実施している。
	2 生徒の教育再生の場として、学習の取組方や社会性を育んでいますか。	③ 不登校等から立ち直り、継続して登校できるようになった生徒が90%以上である。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 生徒の実態を踏まえた学習指導に満足している生徒が80%以上である。 ⑤「授業が分かりやすい」と評価している生徒が80%以上である。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 集中して授業に取り組んでいる生徒が80%以上である。 ⑦ 学習に対する達成感や満足感を持っている生徒が80%以上である。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 全生徒に関する情報交換を月2回実施している。 ⑨ 登下校時を始め、教室内外でのあいさつ運動を日常的に実施している。 ⑩「生徒会活動や部活動が充実している」と評価している生徒が80%以上である。
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると認識している生徒が90%以上である。
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 出席状況が良好である割合が80%以上である。 ⑬「学校生活が充実している」と感じている生徒が80%以上である。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑭「自分の将来に役立つ進路指導を行っている」と感じている生徒が80%以上である。 ⑮ キャリア教育に関わる情報発信を学期に2回以上している。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯ 自分の適性を理解して、進路実現に向けて取り組んでいる生徒が70%以上である。 ⑰ アルバイトを含め、就業生徒が70%以上である。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱ 教育活動を家庭、地域社会に理解してもらうために学校公開を年3回実施している。 ⑲ 学校新聞を学期に1回以上発行し、かつwebページを月に1回以上更新している。
	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ ICTを活用した授業に、生徒の90%以上が満足している。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ 資料はデジタルデータで共有化し職員会議や打合せの紙面資料の配付は週1回以内にしている。

方 策
・ 個々の生徒に目標を持たせ、授業や部活動を活性化することで主体的に学校生活に取り組ませる。 ・ 生徒が学校行事の計画から運営に携わり実施することで、一人ひとりに学校への帰属意識を持たせる。 ・ 不登校等で学習機会が不足した生徒に対し、登校しやすい環境を整え、基礎学力と社会性を育ませることで、前向きに考える姿勢と主体性を身につけさせる。 ・ 生徒の習熟度や実態に応じた指導を心がけ、基礎学力向上を基本として学び直しや振り返りを行い、学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 ・ 教員相互の授業参観・授業研究を通じて、資質向上をめざすとともに授業展開を工夫するなど、生徒の視点に立った授業改善を行う。 ・ 主体的・対話的な学習活動を実践し、生徒が学ぶ楽しさを実感できる授業を展開する。 ・ 3分野の基礎学力テストに目標を持たせ、目標達成に向けた学習意欲の向上を喚起する。 ・ 全職員参加の生徒情報交換会で生徒情報を共有する。それ以外でも情報共有をはかる。 ・ 毎日、登校時の検温指導を行うとともに、生活指導係を中心に職員から挨拶や声かけを積極的に行い、生徒の健康観察や状態把握をする。 ・ 生徒全員が生徒会行事や部活動に積極的に参加できる環境を整えて、主体性の育成とともに、良好な人間関係の構築ができるよう指導する。 ・ いじめの防止、早期発見のため、日々の生徒の様子を全職員で観察し、各職員の気づきを共有した上で適切に対応する。また、定期的に生徒へのアンケート調査を行い、少しでも気になる回答があれば全職員で協議して対応にあたる。 ・ 家庭との連絡を密にとるとともに、個に応じた教育相談を実践し、学校中心の生活を指導していく。 ・ 分かりやすい授業と、学校行事や部活動の主体的な活動を通じて、生徒間の活発な交流を図る。 ・ キャリア教育セミナーの充実を図るとともに、生徒の多様な進路やニーズに対応できるよう情報の収集と提供を行う。 ・ 生徒が進路選択で参考になる『進路通信』を適宜発行することで、自分の将来について考える機会を増やす。 ・ 年2回の進路希望調査を実施し、その結果に基づき進路相談を担当面談を中心に行い、職業適性を見いだすとともに正しい社会情勢を把握させる。 ・ 始業までの時間の有効活用とともに、社会経験を積ませるという観点から、就業を積極的に勧める。また、就業先での悩みなどを気軽に教員に相談できる環境づくりを行う。 ・ P T A 総会、開校記念講演会、校内生活発表大会や年2回実施する学校説明会などの機会を利用し、積極的に学校公開を実施する。 ・ 学校行事等では個人情報に注意を払いながら写真を記録として残し、webページの更新や学校新聞の素材として活用する。
・ ICT利用によって、授業への関心が高まるだけでなく、多角的かつ視覚的に理解が深められ、集中力の持続効果もあるため、積極的に授業に取り入れる。 ・ 会議等の資料は、連絡黒板等に貼付掲示をするか職員用Google Classroomを用いた連絡を基本として必要最小限の配付でペーパーレスを推進する。

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策
B	A	肯定的意見は昨年度より高い。目的意識の低い生徒の指導を継続する。可能な限り学校行事を行い、生徒の活躍の場を作る。			
A	B	アルバイトとの両立が難しく遅刻・欠席が目立つ生徒がいる。卒業に向けて全職員で連携を取りながら、粘り強く指導していく。			
B	A	アルバイトとの両立が難しく遅刻・欠席が目立つ生徒がいる。卒業に向けて全職員で連携を取りながら、粘り強く指導していく。			
A	A	92%の生徒が学習指導に満足している。引き続き学び直しを継続して、基礎学力の定着を図っていく。			
A	A	92%の生徒が「授業が分かりやすい」と感じているが、授業改善を進めて、個々に応じた指導をしていく。			
A	A	肯定的な意見が90%以上あるが、それ以外の学習意欲の低い生徒に対して、短期的目標を設定するなど指導内容を見直していく。			
A	A	日頃より生徒情報を共有し、全職員で全生徒の状況を観察する。			
A	—	挨拶の励行とマナーやルールの遵守に重点を置き、職員が率先垂範して規範意識を育成していく。			
A	—	88%の生徒が評価している。大会等への参加も呼びかけていく。			
A	A	90%以上の生徒、保護者が評価している。問題に対して学校の組織的な迅速・確実な対応が評価されていると考えられる。情報共有を密に、正しい対応をしていく。			
B	—	1学期欠席5日以内が73%。一部の生徒で欠席が多くなっている。			
A	A	達成感・満足感を持つ生徒が多い。より高い意識を持たせたい。			
B	A	92%の生徒が評価している。保護者の満足度を高めるために、個別指導を充実させる。			
B	—	進路通信だけでなく、年4回の面談週間における進路指導を充実させ、進路への意識向上を図っていく。			
B	A	85%の生徒が進路への取組に肯定的であるが、明確な進路目標をもつ生徒は少ないため、面談等で支援する。			
B	B	就業率は58%であるが、さらに労働への関心が高まるように、未就業の生徒に声かけを続けていき、多くの生徒に職業観を持たせていく。			
B	—	1学期に学校公開(授業公開)を実施した。今後は2回の学校説明会に合わせ学校公開を実施していきたい。			
B	B	保護者の学校新聞に対する認知度が低い。郵送で配付しているが、他の方法も検討していく。目を通した保護者からは高評価を得ている。			
A	A	96%の生徒が満足している。学習用端末使用に慣れてきて、学習効果が上がってきている。			
B	—	紙面の配布資料の一部を口頭説明またはClassroom連絡に代替し、ペーパーレス化を少しずつ進めていく。			